

「切手を換金すれば」

「アドバイス」
議員が暴露
アンケート「知らない」

政務活動費で大量購入した切手の使途などを調べている市川市議会の地方自治法に基づく調査特別委員会（百条委員会）が13日開かれ、証人の青山博一議員（自

民党）が、使途とされた市民アンケートについて「知らない」とし、同僚議員から「切手を買って換金すればいい」との「アドバイス」があったことを暴露した。アンケート実施を否定する証言は初めて。

青山議員は当時の所属会派が2012年度に実施したとされるアンケートについて「私は一切知らない。回答はがきや報告書も見たことがない」と述べた。

回答用はがきに使用したとされる80円切手1500枚について問われると「80円切手を購入したのは私だが、アンケートには関わっていない」と答えた。さらに「政務活動費を精算して

いる際、（会派代表の）小泉文人議員から『そんな面倒くさいことをする必要はない。切手を買って換金すればいい。みんなやっている』と言われた」と暴露。切手は換金せず、自身の後援会会報の送付に使ったことを明らかにした。

一部のアンケートの返送先が青山議員の自宅になっていたことについては「自宅に1通も届いたことがな

い。切手問題の発覚後、議会事務局に提出されたアンケートのサンプルを見て初めて知り、驚いた」と、アンケートの存在すら知らなかったことを強調した。

同様のアンケートで切手を使用したとされる小泉議員と松永鉄兵議員（いずれも創生市川）はすでに証人尋問を終えているが、アンケート自体を実施していないと証言したのは、青山議員が初めて。百条委の調査は、切手が本当に使用されたのか、返信用はがきに切手を貼ったとするアンケートは本当に実施されたのか